

③ 障害者理解について考える

池田幸也 東京都立忠生高等学校教諭

授業の ねらい

- 人権、社会保障制度、法律、ボランティアなどについて、教科の枠を超えた総合的な学習を展開する。
- ① 新聞記事に登場する人々の生き方や考え方、個々の人間像を正確にとらえさせる。
 - ② 賛否のある事柄に対して、自分の意見を主張させる。
 - ③ 異なる意見の存在を認めさせる。

授業構成 (2～4時間)

ねらい

おもな学習活動

① 生徒の持っている障害者に対するイメージを明らかにし、その意味を探る。

② 障害者を理解するためには、個々人によって理解の段階があることに気づかせる。

③ さまざまな人々とかかわることで、人間の尊厳や人格の尊重に対する関心の幅が広がることを考えさせる。

④ 障害者差別について考えさせる。

① 障害者のオリンピックといわれるパラリンピックに関する新聞記事を集め、その感想を発表する。



新聞記事は生徒の興味・関心に応じて選ばせる。興味のある競技の記事が中心であったり、特定の選手中心の記事であってもかまわない。大切なのは生徒自身がパラリンピックを通して障害者について何を感じたかを明らかにすることである。ひとつの答えを求めないことが重要。

② a 「理屈を吹き飛ばすパワー：理解深まったかは疑問」の新聞記事を読み、次の2点を中心に意見交換する。また、なぜこの意見の主がこのように主張するかを考える。

- ・「パラリンピックの選手は障害者全体を代表するとは考えられない」
- ・「障害者スポーツの競技化の進行」

資料①

b 障害者プロレス「ドッグレッグス」と北島行徳さんを知る。

新聞記事や書物から「障害者プロレス「ドッグレッグス」」はどのような団体か、各グループで新聞記事や書物などを調べてまとめ発表する。また、主催者の北島さんの考え方についても整理する。

資料②～④

③ グループによる発表と一人ひとりの発表を行う。その後、感想を集めて報告書を作成し、さらに北島さんやドッグレッグスのメンバーに送る。

また、この活動に賛否の声があることにも注目して意見交換し整理する。

資料⑤

④ 障害者差別の問題にかかわる記事を集め、どのような問題として扱われているかをまとめる。その上で、ドッグレッグスのあり方や北島さんの考え方と合わせて考える。

評価の 観点

- ① 記事に登場する個々の人間像を正確にとらえることができたか。
- ② 賛否のある事柄に対して生徒が自分の意見を持ち、それを主張できたか。
- ③ 異なる意見の存在を認めることができたか。

